

「心とからだ いきいき（食・読・遊・寝）キャンペーン」について

平成19年6月28日

教 育 総 務 課

「心とからだ いきいき（食・読・遊・寝）キャンペーン」を開始して3年目を迎え、学校や保護者への浸透状況等を把握するため、下記のとおりアンケート調査を実施しました。この調査結果をもとに、キャンペーンの今後の展開を検討していきます。

「心とからだ いきいき（食・読・遊・寝）キャンペーン」に関するアンケート調査について

○校長・園長アンケート（県内全学校・園を対象）

- ①時期 平成19年3月
- ②対象 国・公・私立の保育所(208)、幼稚園(40)、小学校(153)、中学校(63)、高等学校(31)
- ③調査概要…別添「資料1」参照

○推進会議加入団体アンケート

- ①時期 平成19年4月
- ②対象 推進会議加入団体（調査実施時112団体）
- ③調査概要…別添「資料2」参照

○保護者アンケート（抽出調査）

- ①時期 平成19年5月
- ②対象 保育園(5園)、幼稚園(5園)、小学校(5校)、中学校(5校)、高校(5校)、特別支援学校(3校)の保護者
- ③調査概要…別添「資料3」参照

※「心とからだ いきいき（食・読・遊・寝）キャンペーン」第3回推進会議の開催

- (1) 日時 平成19年7月9日(月)午後1時30分～3時30分
 - (2) 場所 県立図書館 大研修室
 - (3) 内容 アンケート調査結果報告及び課題に対する方策 など
- ※構成団体 112団体 (H19.6.20 現在)

「心とからだ いきいき（食・読・遊・寝）キャンペーン」に関するアンケート調査結果の概要

教育総務課

- 1 調査時期 平成19年3月
- 2 調査対象 国立・公立・私立の保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校
- 3 結果概要
(回答状況)

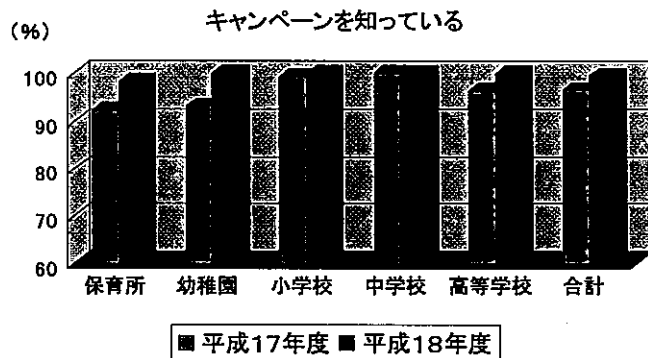
	保育所	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	合計
対象数	206	44	153	63	31	497
回答数 (%)	115 (55.8)	37 (84.1)	146 (95.4)	56 (88.9)	30 (96.8)	384 (77.3)

(問1-1) キャンペーンを知っている (%は回答数に対する比率、以下同じ。)

	保育所	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	合計
知っている	113	37	146	56	30	382
(%)	(98.3)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(99.5)

【前年度との比較】

- ・ すべての校種において前年度より認知度が高くなっており、一部の保育所を除き、キャンペーンが認知されている。

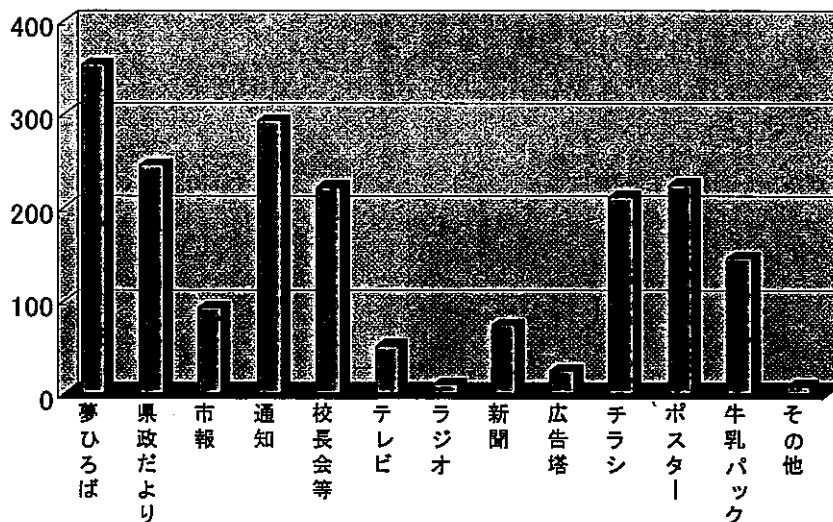


(問1-2) キャンペーンをどこで知ったか (複数回答)

【主な媒体】

「夢ひろば」353件 「県政だより」245件 「テレビ」51件
 「広告塔」24件 「チラシ」221件 「牛乳パック」145件

どこで知ったか



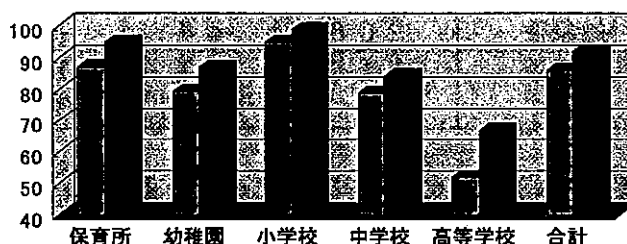
(問2) キャンペーンの趣旨等をどう思うか

	保育所	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	合計
賛同し、協力する (%)	109 (94.8)	32 (86.5)	144 (98.6)	47 (83.9)	20 (66.7)	352 (91.7)
賛同するが、特段の取組は行わない (%)	0 (0.0)	3 (8.1)	3 (2.1)	8 (14.3)	9 (30.0)	23 (6.0)
問題意識も持っていないし、賛同もしない (%)	2 (1.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.5)

【前年度との比較】

- すべての校種において、「キャンペーンの趣旨に賛同・協力」する割合が高くなっている。
- 高等学校においては、「キャンペーンの趣旨に賛同するが特別な取組を行わない」とする割合が高い。

(%) キャンペーンの趣旨に賛同・協力



■平成17年度 ■平成18年度

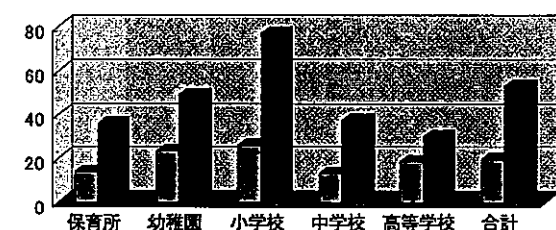
(問3) キャンペーンについての周知方法等 (複数回答)

	保育所	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	合計
全校児童生徒の前で話をした (%)	41 (35.7)	18 (48.6)	112 (76.7)	21 (37.5)	9 (30.0)	201 (52.8)
学校便り・PTA広報誌等に掲載 (%)	70 (60.9)	28 (75.7)	121 (82.9)	29 (51.8)	6 (20.0)	254 (66.1)
キャンペーンに関わる内容の学習や活動 (%)	31 (27.0)	9 (24.3)	79 (54.1)	10 (17.9)	9 (30.0)	138 (35.9)
PTA・保護者会で話をした (%)	23 (47.0)	12 (40.5)	92 (84.9)	20 (46.4)	5 (26.7)	152 (59.1)
校内にポスター・ステッカーを掲示 (%)	54 (74.8)	15 (40.5)	124 (84.9)	26 (46.4)	8 (26.7)	227 (59.1)
周知していない (%)	2 (1.7)	0 (0.0)	1 (0.7)	3 (5.4)	2 (6.7)	8 (2.1)

【前年度との比較】

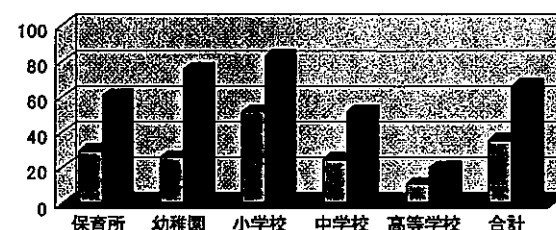
- 前年度と比べ、それぞれの方法で保護者・児童生徒への周知が図られている。
- 校種別では、小学校における取組が充実している。
- 中学校、高等学校における周知が不十分であり、「校内にポスター・ステッカーを掲示する」方法は、前年度を下回っている。

(%) 周知方法(全校児童生徒の前で話)



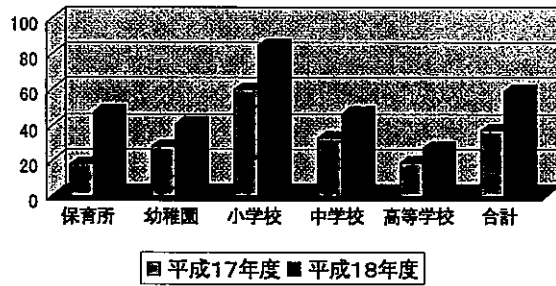
■平成17年度 ■平成18年度

(%) 周知方法(学校便り・PTA広報誌等に掲載)

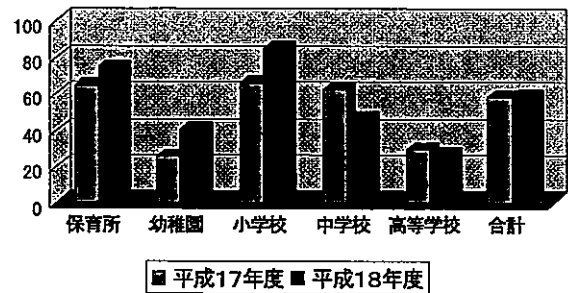


■平成17年度 ■平成18年度

(%) 周知方法(PTA・保護者会で)

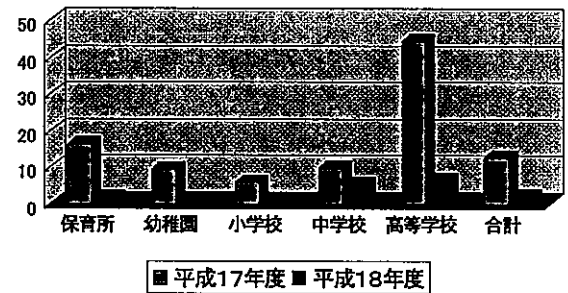


(%) 周知方法(校内にポスター・ステッカーを掲示)



- 周知していないという割合は、すべての校種で低くなっており、特に高等学校で改善が見られる。

(%) 周知していない



(問4) 保護者・児童生徒へ周知した回数・内容 (複数回答)

実施校数 193校 平均回数 4.1回

- 「キャンペーンの趣旨・内容等」に関するもの 99件
- 「しっかり朝食を食べよう」や、食育、朝食と学力との関係に関するもの 120件
- 「じっくり本を読もう」や朝読書、読み聞かせ等に関するもの 86件
- 「外で元気に遊ぼう」や外遊び、健康な体づくり等に関するもの 78件
- 「たっぷり寝よう」や、睡眠の大切さ、早寝早起き等に関するもの 117件
- 「長時間テレビを見るのはやめよう」や、ノーテレビ、ノーゲームメディアとのつきあい方等に関するもの 96件
- 「服装を整えよう」や、頭髪、名札等に関するもの 27件
- 社会のルール・マナーや規範意識に関するもの 73件

(問5) 学校便り、PTA広報誌等に掲載した回数・内容 (複数回答)

実施校数 学校便り 240校 平均回数 4.0回
PTA広報誌 79校 平均回数 1.7回

- 「キャンペーンの趣旨・内容等」に関するもの 123件
- 「しっかり朝食を食べよう」や、食育、朝食と学力との関係に関するもの 170件
- 「じっくり本を読もう」や朝読書、読み聞かせ等に関するもの 107件
- 「外で元気に遊ぼう」や外遊び、健康な体づくり等に関するもの 90件
- 「たっぷり寝よう」や、睡眠の大切さ、早寝早起き等に関するもの 151件
- 「長時間テレビを見るのはやめよう」や、ノーテレビ、ノーゲームメディアとのつきあい方等に関するもの 149件
- 「服装を整えよう」や、頭髪、名札等に関するもの 24件
- 社会のルール・マナーや規範意識に関するもの 64件

(問6) 学級(組)で学習(活動)した内容(複数回答)

実施校数 全クラス実施118校 一部クラス実施28校

- ・ 「キャンペーンの趣旨・内容等」に関するもの 43件
- ・ 「しっかり朝食を食べよう」や、食育、朝食と学力との関係に関するもの 85件
- ・ 「じっくり本を読もう」や朝読書、読み聞かせ等に関するもの 73件
- ・ 「外で元気に遊ぼう」や外遊び、健康な体づくり等に関するもの 48件
- ・ 「たっぷり寝よう」や、睡眠の大切さ、早寝早起き等に関するもの 68件
- ・ 「長時間テレビを見るのはやめよう」や、ノーテレビ、ノーゲームメディアとのつきあい方等に関するもの 70件
- ・ 「服装を整えよう」や、頭髪、名札等に関するもの 26件
- ・ 社会のルール・マナーや規範意識に関するもの 34件

(問7) 保護者会・PTA会議等で話した内容(複数回答)

実施校数 225校 平均回数 2.8回

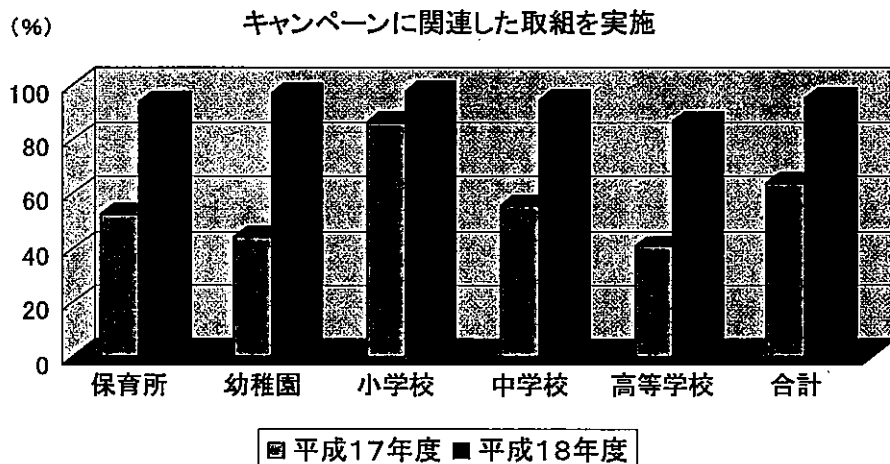
- ・ 「キャンペーンの趣旨・内容等」に関するもの 135件
- ・ 「しっかり朝食を食べよう」や、食育、朝食と学力との関係に関するもの 144件
- ・ 「じっくり本を読もう」や朝読書、読み聞かせ等に関するもの 76件
- ・ 「外で元気に遊ぼう」や外遊び、健康な体づくり等に関するもの 54件
- ・ 「たっぷり寝よう」や、睡眠の大切さ、早寝早起き等に関するもの 112件
- ・ 「長時間テレビを見るのはやめよう」や、ノーテレビ、ノーゲームメディアとのつきあい方等に関するもの 113件
- ・ 「服装を整えよう」や、頭髪、名札等に関するもの 24件
- ・ 社会のルール・マナーや規範意識に関するもの 66件

(問8) キャンペーンに関連した取組み(PTA事業等を含む)の実施(複数回答)

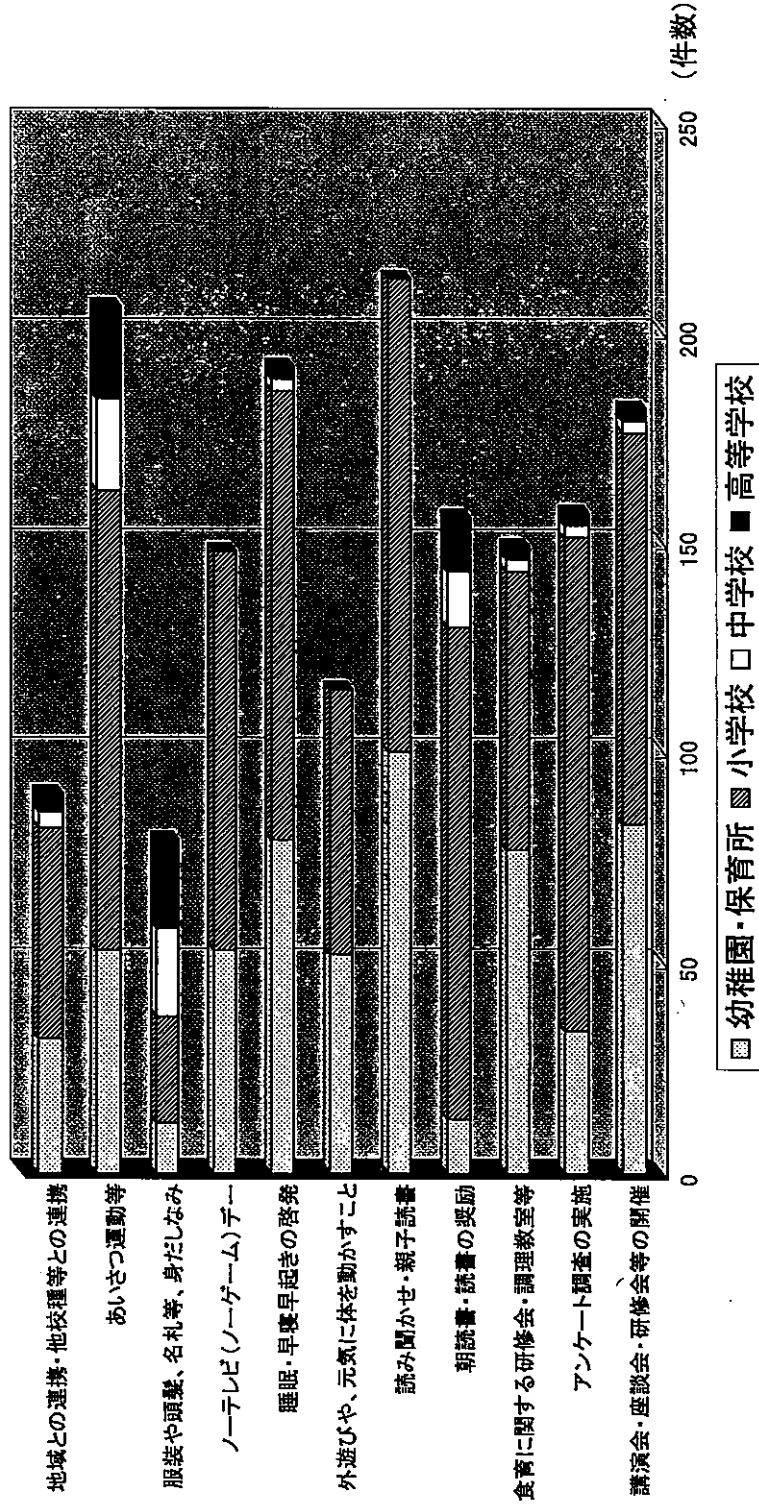
	保育所	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	合計
実施している	108	36	143	53	26	366
(%)	(93.9)	(97.3)	(97.9)	(94.6)	(86.7)	(95.3)

【前年度との比較】

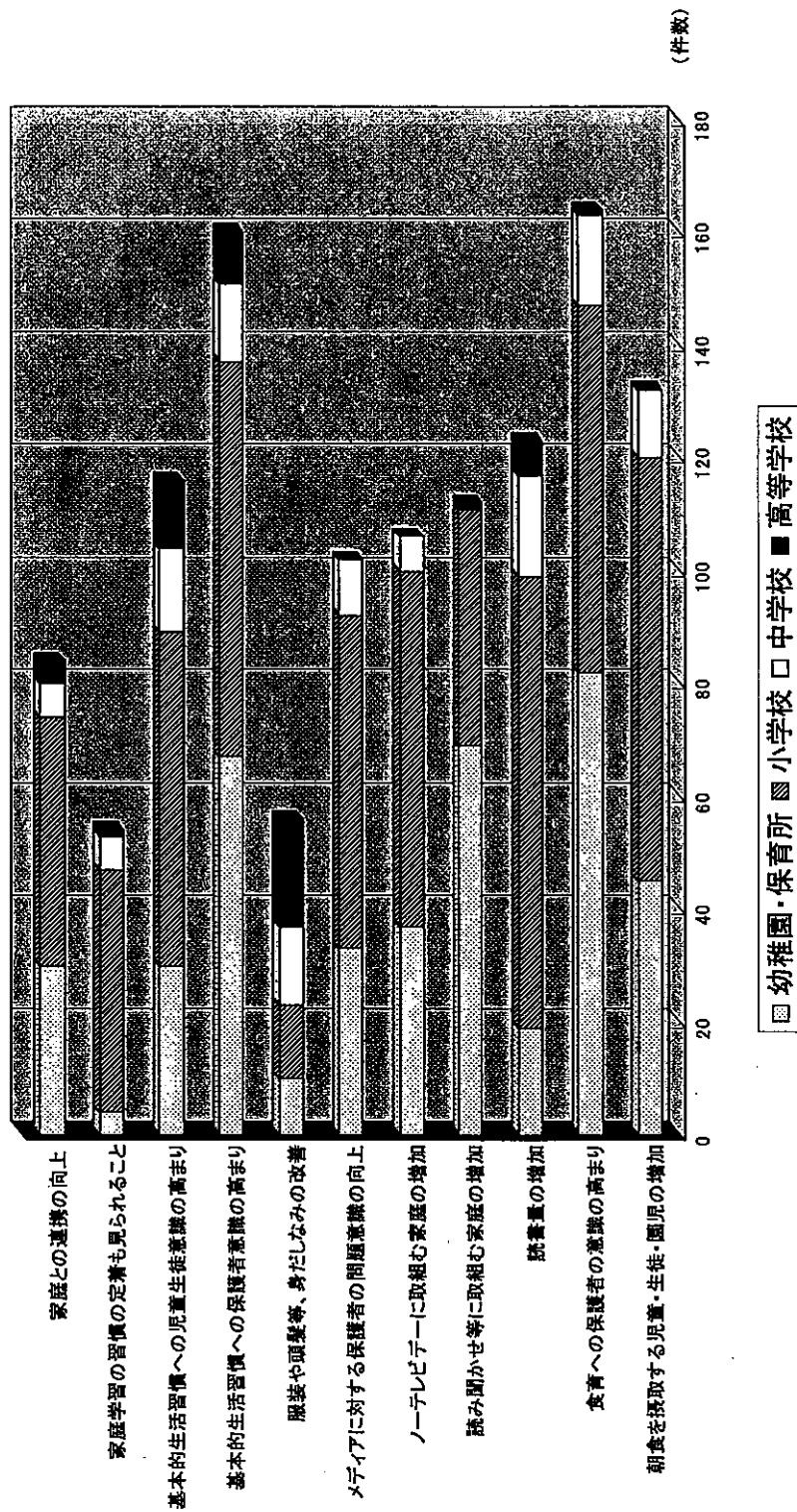
- ・ すべての校種において実施率が高くなっている。(取組内容の詳細は別紙参照)



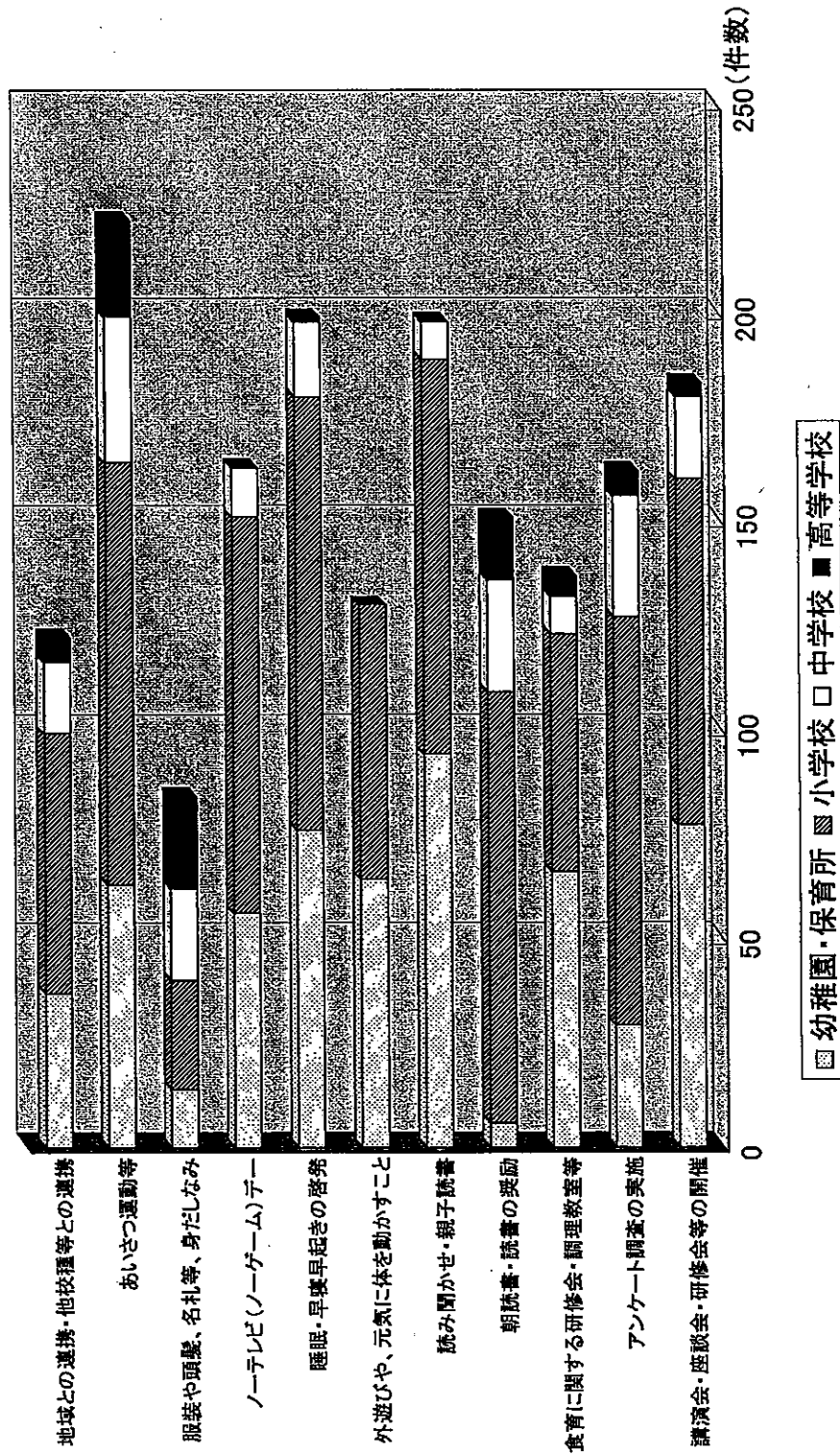
(問8) 取組内容



(問8) 取組成果



(問9) 取組予定



心とからだいきいき（食・読・遊・寝）キャンペーン

アンケート調査（記述部分）のまとめ

【幼稚園・保育園】

問8 取り組んでいるキャンペーンの内容	取り組みの主な成果	問9 今後の取組予定
<ul style="list-style-type: none"> ・給食のレシピ作り、配布 ・廊下に食育コーナーを展示 ・園で子供たちが野菜を育て給食で食べる ・子供向けや保護者向けの食育や早寝早起き講演会の実施 ・地域ボランティアによる読み聞かせの実施 ・生活習慣に関するチェックカードの作成配布 ・ノーテレビデー、ノーゲームデーの実施 ・保護者と児童によるあいさつ運動 ・小中学校との交流及び情報交換 	<ul style="list-style-type: none"> ◎給食の残量が減少した ◎朝食を食べない子が減少した ◎本への関心が高まった ◎家庭でテレビ視聴時間が減少した ○ノーテレビ、ノーゲームへの賛同意見が多い ◎登園時間など生活時間の定着が多くみられる ◎忘れ物が減少した ○保育園、小学校、中学校との交流で人との接し方を学び、中学生が良きモデルとなった。 ▲親に時間的な余裕がないなど行動できない家庭がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・親子料理講習会を開催予定 ・園庭を芝生化し、外遊びを充実する ・中学校及び小学校との交流の継続 ・繰り返しのアンケート実施による意識啓発の継続

問10 キャンペーンについての意見	キャンペーンについてのアイデア
<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の意識啓発が必要 ・実践の具体例が知りたい ・講演会等の講師の紹介や派遣をお願いしたい ・大切なことなので継続することが必要 ・地域全体で取り組むことが大切 ・子供は大人の生活にふりまわされるので、男女共同参画の集会時にも啓発することが必要 ・私立保育園は子ども家庭課の管轄下であるが教育委員会より取組方が弱い。子ども家庭課からの各家庭への発信がもっと必要だ ・生活改善は兄弟のことがあるので保育園単独で取り組むより小学校と連携した方がよい ・西部ではキャンペーンの認知度が低い 	<ul style="list-style-type: none"> ・マスコミに働きかけていくが必要 ・地域の老人を巻き込み読み聞かせの会を開催する ・イベントの開催 ・子供にもわかりやすい紙芝居があると良い ・TVコマーシャルの実施が効果的 ・キャンペーン充実のため小学校と連携した取組が必要

【小学校】

問8 取り組んでいるキャンペーンの内容	取り組みの主な成果	問9 今後の取組予定
<ul style="list-style-type: none"> ・料理コンテスト ・毎日、校内放送を活用した給食の献立や食に関する伝統行事の紹介 ・家族で一緒に過ごす「きずな週間」を創設した ・標語募集及び立て看板の設置 ・朝読書の継続実施 ・土曜日にPTAや地域と連携した季節ごとの伝統行事教室の開催 ・学級全員で遊ぶ日や部落で遊ぶ日を設定 ・保育園と中学校と連携したノーテレビデー、あいさつ運動の実施 ・安全パトロール隊や更生保護女性会との連携による挨拶運動の推進 ・スマイル貯金箱制度の創設 	<ul style="list-style-type: none"> ◎朝食を食べてくる子が9割以上となった ◎朝食を食べる児童の増加に伴い病欠児童が減少した ◎図書の貸し出しが前年度より1万冊以上増加した ◎子供の平均読書量が145冊となった ◎昨年と比べ宿題や忘れ物をする児童が減少した 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の読み聞かせ隊の結成 ・親子読書の推進 ・PTAの活動とタイアップした各種取組の充実化 ・PTAや地域と連携した取組の実施

問10 キャンペーンについての意見	キャンペーンについてのアイデア
<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な運動にしていくことが必要 ・乳児期での保護者対象の研修の場が必要。就学後の段階では困難 ・親の意識改革が必要 ・取組の大切さが理解できない家庭と理解できているのに取り組めない家庭への対応も必要 ・学校やPTAだけでなく地域に情報を流してほしい。公民館活動として取り組めることがあるかもしれない 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞やTVによる広報活動 ・全県でのノーテレビデーの実施など大胆な企画が必要 ・子供向けの出前事業の実施 ・保護者対象の講演会の実施 ・各種PTA研修会の場を活用した事例発表などの意識啓発 ・月に一度のいきいきキャンペーンの日の創設 ・定期アンケートの実施と結果の広報や優良な取組の積極的な紹介 ・学力との相関関係を強調すること ・食読遊寝日記（又はノート）や食読遊寝下書き、しおりなどの配布 ・食読遊寝カレンダーの作成配布 ・講師の紹介や派遣 ・PTA全体でしっかりと取り組むことが必要 ・県P連の主たる活動に取り入れること

【中学校】

問8 取り組んでいるキャンペーンの内容	取り組みの主な成果	問9 今後の取組予定
<ul style="list-style-type: none"> ・ PTA母親委員会の事業として栄養士を囲んだ食育座談会の開催 ・ PTAによる元気の出る朝食料理教室 ・ 立て看板100枚設置、啓発パンフレット2,000部作成、配布 ・ 実践報告講演会 ・ 読書ボランティアの実践者を外部指導者として招き読書活動を奨励した ・ ゲームやインターネット等の制限をする運動 ・ テレビ(ゲーム)と教科の学力の相関関係を分析し、学校便りとして公表 ・ 町内の保育園や小学校と連携し「ノーテレビ、ノーゲーム」週間を実施 ・ 生活実態調査の実施 ・ あいさつ月間として全保護者による街頭指導、PTA生活指導部による校門指導 ・ 元気ハツラツ運動(会話で築こう家族の絆、守ろう安全子供の笑顔、もりもり食べよう家庭の食事、着こなし指導は家庭から) 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 食事中にTVを消す家庭が増え親子の会話が増えた ◎ 就寝時刻が12時を過ぎる生徒が減少した ○ インターネットや携帯電話の子供に与える悪影響について関心が高まり、PTAの懇談会などでも意見交換が活発となった ○ ノーテレビデーに取り組む家庭が増えた ◎ テレビの視聴時間が減り学習時間が増えた ◎ 生活習慣チェックカードの導入により生徒の就寝やテレビ視聴時間などの生活習慣の改善がみられた。 ◎ 学校生活の中で落ち着きのある生徒が少しではあるが増加している ◎ 学校全体が落ち着き日々の生活状態が安定している ◎ 低学年ほど変化の度合いが大きく生活リズムの改善につながっている ◎ 地域でもあいさつをする生徒が増加している ▲ 特に若い保護者の指導が必要であると思う。あまりにも生き方の価値観が異なりすぎる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園、小学校と合同で「睡眠・早寝早起き」の啓発に関する取組の実施 ・ 講演会の実施 ・ 基本的習慣に関するアンケート調査 ・ 小学校と連携した町内キャンペーンの実施 ・ 町の子育て総合ビジョンの取組と連携

問10 キャンペーンについての意見	キャンペーンについてのアイデア
<ul style="list-style-type: none"> ・ 続けてできる活動や地元根付いたものにしていく工夫が必要 ・ 鳥取市教育委員会の展開しているモラル・マナー事業と重複部分がありキャンペーンのアンケートには回答しづらい部分があった ・ 学校が独自に取り組んでいた活動を県がバックアップしてくれるのでありがたい ・ 県関連を含めアンケート調査が多すぎる。傾向を知るのであれば一部の学校に依頼するなど工夫するように要望する ・ 3歳から就学前までの子供を持つ親に対する研修や学習会が必要だと強く思う ・ キャンペーンを進める部所の本気さが伝わらない。学校や家庭には各方面から要求がきます。その中で取組を進めるには、しかける方の思いが伝わらなければ行動しない。まずマスコミ在り方から見せてほしい ・ 中学校から取り組むのは遅い。保育園や小学校低学年時に保護者を通じた指導が必要と強く感じた ・ 夢ひろばでわかりやすくまとめてあってとても良い。今後も継続を希望する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報紙、看板、カレンダー、ロゴを入れるなどの啓発方法の工夫と予算化が必要 ・ マスコミの積極的な活用 ・ 生涯学習課では保護者対象の「子育て講座」を予算化しているが企画は単Pにまかされている。食の大切さ等具体的データをあげて講演できる人があれば各PTA会長宛にチラシを配り「子育て講座」で活用していただけるようPRしてはどうか

【高等学校】

問8 取り組んでいるキャンペーンの内容	取り組みの主な成果	問9 今後の取組予定
<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書は7年間実施し全学年で定着している ・定期的な頭髪、服装検査の実施 ・クラス代表やPTAと連携したあいさつ運動 ・<u>生徒やPTAが一体となった駅周辺の清掃、花壇作り、あいさつ運動の展開</u> ・<u>高校生マナーアップさわやか運動を地域、保護者、生徒、教員が協力して実施</u> ・学校ホームページで保護者宛に掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>食育に対する生徒の意識が高まった</u> ○急激な変化はないが生徒の生活全般は数年前より確実に良くなってきている ○来校者への生徒あいさつや服装、頭髪などに対する保護者からの意見や要望などに対応する機会が増加した ◎<u>生徒のマナーアップや環境美化等このころの育成の面で良い効果がもたらされている</u> ◎<u>あいさつをする生徒が多くなった</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の10分間読書の継続 ・PTAと連携したあいさつ運動 ・今までのあいさつや服装指導等だけではなく保健関係の活動として朝食の重要性や基本的な生活習慣の確立の必要性など体の不調を減らすための努力を学校内で取り組んでいる

問10 キャンペーンについての意見	キャンペーンについてのアイデア
<ul style="list-style-type: none"> ・即効性を求めるのではなくもっとゆっくりと進めていくことが肝要 ・一つ一つの内容が意義ある物であることをねばり強く<u>説明し実際に行動していくことが大切</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>単独のキャンペーンではなく、他のキャンペーンと連動させることにより相乗効果をねら</u>

加入団体アンケート調査結果

【PTA関係】

	活動内容	主な成果	今後の課題
全体	①PTAあいさつ運動の実施 ②「親子でがんばる6つのチャレンジ」と題したチャレンジ表の記入 ③地区巡視 ④親子レクリエーション研修会	①自発的に挨拶できる生徒が増えた ②子どもの話を真剣に聞くことができた。 ③保護者にも放課後の市街地の様子を見てもらった。 ④親子のふれあいを沢山もてるようになった(特に父親との遊びが増えた)	①PTA役員の人出席者の増 ③大人の目がない場面でもしっかりした行動がとれるよう日常的な見守りは必要 ・保護者同士のあいさつ運動 ・家族と一緒に食事、会話する機会を増やす
食	①生活アンケートの実施(子ども対象) ②「親子でがんばる6つのチャレンジ」と題したチャレンジ表の記入	①現状を知ることができた。 ②保護者の意識を変えることができた。	①定期的にアンケートを実施すること。 ②給食参観や各学年学級行事などに食育の講演会及び親子参加イベントを実施したい。
テレビ	①「親子でがんばる6つのチャレンジ」と題したチャレンジ表の記入 ②ノーテレビタイム週間実施	①食事のときは意識してテレビをつけなくなった。	①時間の約束を必ずするようにする。
服装	①登校状況視察(学校入口で声かけ)	①生徒の服装等について保護者の目で見えた感想をまとめ文書で家庭へ配布	①大人の目がない場面でもしっかりした行動がとれるよう日常的な見守りは必要。
マナー	①高校生マナーアップさわやか運動に参加		①大人の目がない場面でもしっかりした行動がとれるよう日常的な見守りが必要

【社会教育関係団体】

	活動内容	主な成果	今後の課題
食	①「子どもの食」をテーマに入れた講演会(講演・シンポジウム・各グループでのフリートーク)の開催	①食育の大切さを再認識してもらえた	①このような会は一度やればよいというものではなく、定期的に開催していくことが大切。保育園や保護者と一緒に企画していくことが必要。関心を持っている人は出席しているが、そうでない人にどう広げていくか。
寝	①キャンプ生活の場で接することが多いが、日中しっかりと活動をした子どもは早寝早起き。		
マナー	①ボーイスカウト活動には、おきて等があり、子どもは自己の言動について責任をもつよう指導している。(ルールやマナーは協力の原点)	①協力しあう姿に接することが多い	①活動の中で着実に規範意識を育てたいと思っているが活動だけではムリなことも多い。

【市町村教育委員会】

	活動内容	主な成果	今後の課題
全体	①小学生対象の「通学合宿(6泊7日)」を実施(子どもたちが班活動の中で自分の身の回りのことを全て行いながら学校へ通う) ②保育所・幼稚園・学校・PTA・地域に呼びかけ町内あげでの「あいさつ+ONE(言葉かけ)」運動を実施。18年度は着ぐるみで学校等を訪問。児童生徒、保護者等を対象にアンケートを実施し運動の定着度等をまとめた	①生活リズムの向上、社会のルール・マナーを学ぶ協調性を身に付ける。 ②着ぐるみが子どもたちに好評で朝から笑顔あふれるあいさつがかわされた町民の意識を前年度より高めることができた。	①実施にかかる指導者体制の検討 ②町内の事業所等での取り組みが不十分。継続した運動の展開が望まれている。マナー化しないための手立てを構築する。
マナー	①H17年度より「モラルやマナー・ルールを大切にする風土(人)づくり」事業を実施。市民集会の開催や各小中学校・PTAを中心に具体的活動を進めている。	①教育機関を中心としながら広く一般市民にも活動が周知されつつある。賛同者も多くなってきた。	①現場で自主的な活動をいかにして育てるかを工夫すること。また、地道に粘り強く事業を進めること。

【保育園】

	活動内容	主な成果	今後の課題
全体	①あいさつ運動の実施 ②地域探検（保護者会中心で計画 中）		
食	①保育所だより等で啓発 ②講演会・お話し会等の実施 ③親子クッキング ④米、野菜を栽培収穫し、子ども クッキング ⑤朝食、うんち、歯磨きカレンダ ーの実施 ⑥食育劇、紙芝居、絵本等で啓発 ⑦給食参観や試食会の実施 ⑧栄養士と料理づくり ⑨保育参観日に給食の様子を参観	②子どもたちの食に対する関心が高 くなってきた。 ③大好評。参加者も約98% ④自分の口に入るまでの大変さ、関 わる人の努力などが伝わり「あり がとう」の言葉が自然に出るよう になった。自分が栽培したこと の喜びで、苦手な物でも食べられる ようになった。 ⑤普段したがらない子どもが、自ら 進んで取り組むようになった。	・共通して、継続して実施す ること。 ・家庭との連携が特に必要。 ③一人でも多くの保護者に聞 いてもらうこと。 ④今年度は保護者会が中心に なって実施する予定。
読	①読み聞かせ ②保育所文庫の貸し出し ③図書館との連携 ④ブックスタート	①心落ち着いて人の話が聞ける ②保護者が親子の会話をたくさんも つことができた。子どもが好きな 絵本を読むことで、絵本に興味 がもてるようになった。 ③園にはない珍しい本を見ることが でき好評だった。対象年齢より上 の年齢のものが見られるようにな った。	・継続して実施すること。 ・貸し出しても、保護者に読 んでもらわないまま返却す る子どもがいる。 ・絵本にあまり興味を示さな い子どもへの配慮。 ・保護者への啓発
遊	①体育遊び指導者を迎え遊ぶ ②畑作りチャレンジ ③週1で散歩の日を設定 ④園外保育の実施	①保護者からも好評。遊び方や遊び の工夫ができた。 ・長い距離でも疲れることなく歩け だした。 ・子どものつぶやきが多くなった。 ・普段見つけにくい発達の遅れ等の 気づき	
寝	①早起き・朝ご飯・早寝カレンダ ー実施 ②保育所だより等で啓発 ③「時の記念日」時に「時計を見 る会」を設け、子どもたちに生 活の時間を知らせる。	①カレンダーへの関心が大きく、自 ら進んで実施している。夜型だっ たが早く寝るようになった。 ③子どもたちで生活の時間を決めさ せたことにより、意識して行動で きるようになった。	①継続実施すること。 ③子どもの中で守ろうという 思いがあっても、大人の都 合や家庭での甘えでルーズ になりつつある。 ・家族の都合で子どもの生活 リズムが左右される。 ・必要に応じて個々に対応し ているが、親の自覚がなか なかもなくて今後も啓発 が必要な家庭がある。
テレビ	①園だよりで啓発	・ノーテレビ等により、保護者から 「子どもの目線で会話ができた」、 「子どもの心を感じ取る時間がも てた」等の声あり。	①長時間はいけないことはわ かかっていてもつい見させて しまう。
服装	①園だよりでの啓発		①園だよりのみでは浸透し ないため、声かけが必要。
マナ ー	①園だよりでの啓発 ②園内外保育での実施、専門機関 との連携（交通安全・リサイク ル・公共の場での遊び等）		①大人が手本を示すよう協力を 得る。 ・家庭・地域も一緒になって 実施することが大切。常日 頃から啓発している。

【小学校】

	活動内容	主な成果	今後の課題
全体	①あいさつ運動の実施	①あいさつの声が大きくなった、他学年同士でもあいさつできるようになった	①あいさつが玄関前だけで終わってしまいがちなので、どこでもできるようにあいさつ運動の意義を再確認する必要がある。
食	①アンケートの実施（実態は保護者へ報告） ②朝食調べ ③給食試食会・学校栄養職員の講演 ④体重測定時の養護教諭のミニ保健指導 ⑤栄養士の講話と調理実習	・朝食をとっていない児童に対して、担任による教育相談や個別指導を行い、ほとんどの子が食べるようになってきた ・保護者に朝食の大切さを理解してもらうことで朝食の中身が充実 ②子どもたちが日常生活を振り返り、少しずつ直していこうとする姿が見られた。	・一人で食べていたり、単品だけで済ませている児童があるので、家族の誰かと一緒にたべるように呼びかける。 ・生活リズムの乱れがちな子どもに一人ひとりに応じた対応をし、改善をはかる。
読	①朝読書 ②読み聞かせ（読み聞かせボランティア等） ③絵手紙コンクール参加 ④読書賞発行 ⑤親子で本の輪読 ⑥親子読書（学校図書館を保護者に開放）	①朝読書をすることで安定した状態で1日がスタートされる ④読書賞を発行することで意欲を持って本を借りる姿が見られるようになった。 ⑤親子で輪読をすることにより親子のふれあいがもてた。 ⑥学校図書館で本を借りる保護者が増え、親子読書の輪が広がりつつある。 ・子どもの集中力が向上してきた	⑥より多くの保護者に広げていくこと。いかに保護者を取り巻いていくか。親の姿を見て学ぶことが多い。
遊	①縦割り班ごとにグループ遊び ②自主トレ活動（登校したら各自のペースでグラウンドを走る） ③スーパーロングタイム（週1回昼休憩を40分とり思い切り遊ぶ）	①縦割り班ごとのグループ遊び等をもうけることで、外で遊ぶ姿が多く見られるようになった。	①設定された場面では外で遊んでいるが自由時間になると体育館や教室に入ってしまう子がある ②自主トレをあまりしない子どもたちもいるので、一人ひとりが自分の生活の一部として取り組めるよう意欲化をはかること。
寝	①「親子でがんばる6つのチャレンジ」と題したチャレンジ表の記入 ②実態調査の実施 ③地域ぐるみで取り組むよう協力依頼（PTA会報へ掲載、地区別の会で依頼） ④各家庭に早寝早起きのポスター掲示	①朝食を確実にとれるようになった。1日の時間の配分を意識することが少してきた。 ③地域ぐるみで取り組むことでより協力を得ることができた。 ④改善報告あり	①ノーゲームやノーテレビ・スマホなどの時間配分を意識できるよう取り組みができれば少しは克服できる。 ②平日は10時までに寝る子が多いが、休日は遅くなりがちである。
テレビ	①メディアの影響についての講演 ②生活予定表作り（親子の話し合いのもと）	②親子のかかわりが増えた ・食事中はテレビを消すことで親子の会話が増えた	・親ができていない家庭もある。 ・テレビを見ていなくてもいつもテレビがついているという家庭があり、今一度親子で話し合う必要性があるとともに、継続して取り組めるよう時々チェックが必要
服装	①衛生調べの際に頭髪の長さをチェック ②毎日朝の会でハンカチとネームのチェック	①頭髪の長さが守れていない児童には家庭連絡をすることで協力を得ている。 ②毎日のチェックによりほぼ全員が所持できている。	①頭髪の長さに関しては、個人の好みもあり一律にそろえられない面もある。
マナー	①毎月生活目標を決め、次の月に反省 ②「いい所見つけコーナー」の設置 ③その場に応じた言葉遣いや声の大きさ等を常時指導	②「いい所見つけコーナー」を設置することで自尊感情が高まるとともに相手を思いやる心が育ってきた。 ③敬語をきちんと使える子が増えた。	①目標がマンネリ化しており本当の意味での目標になっていない実態にあわせた目標を掲げる。

【中学校】

	活動内容	主な成果	今後の課題
全体	①生徒会が中心となって地域の観光資源である鳥取砂丘へ全校遠足を実施。縦割りグループでの取り組み。 ②生徒会中心にあいさつ運動の実施(生徒・保護者・教員が参加)	①縦割りの取り組みでは新しいかわりを感じながら取り組めた。また、生徒の運営ということもあり自主性の育成という点でも成果があった。 ②あいさつの声が大きくなるなどの効果があらわれている。	①縦割りに関しては、さまざまな可能性を見出すことができた。また砂丘(地域の観光資源)をよりよく知るという点で継続したい活動である。 ②仕事もあり保護者の参加が難しい
食	①食生活改善推進員連絡協議会の方に健康な身体づくりのための食生活の話聞く等 ②保健だより、学校だより、学級・学年通信などで啓発	①参加生徒に「ヘルスサポーター認定証」が渡され、改めて健康的な食生活に対する認識を深めることができた。 ②朝食をとる生徒の割合が増えつつある	①パターンを変えて、何度か継続的に体験できたら ②朝食の内容の充実を啓発していく必要がある
読	①朝読書 ②小学生への絵本の読み聞かせ	①読書の習慣が定着している。学校生活全般に落ち着きが感じられる。 ・読書への関心が高まっている	①読書内容の深化(名作離れをどうすればよいか。)本の紹介(自分の読んだ本を友だちにどう広げていくか。)朝読書の習慣を生徒一人ひとりの読書習慣へいかに結びつけていくか。
遊	①保健体育の授業で毎時間欠かさず基礎体力づくりの運動を実施	①3年間の体力向上がめざましかった。(昨年度は、毎日カップで全国表彰を受けた。)	
寝	①生活実態調査の実施	①全体的には規則正しい生活習慣が身に付いている。	①根気強い指導が必要
テレビ	①テレビを消して家庭学習の習慣化を図っている	②テレビやゲームに費やす時間はかなり多いようであるが3年生になると視聴時間は減ってきている	①1年時より集中して家庭学習に取り組む必要性を繰り返し説いていかなければならない
服装	①日常的に指導を行っている。全教職員の共通理解のもと、指導がいきわたるよう実践している。	①著しい乱れのある生徒はいなくなったが、細かいところでの乱れはまだ見受けられる。	①教師による指導と生徒による自主的活動を組み合わせることでより効果があげられると期待している。
マナ	①社会にでていくための準備期間と位置づけその意義を折に触れて説いている。	①正しい言葉遣いできていないなどまだまだ課題が多い。	①社会に出ていくという自覚をどのようにもたせるか、自らを律していこうとする意志をどう育てていくかが課題

【高等学校】

	活動内容	主な成果	今後の課題
食	①授業で食事の重要性を学習 ②保健だよりでの啓発	①自分の食事診断をすることで食事内容を振り返ることができた。食事の意義についても理解できた。	①知識として学習したことがどれくらい実生活に反映しているかつかみにくい。 ②保護者への啓発、連携をどのように行っていくか。
読	①朝読書 ②3カ国語で読み聞かせ	②読み聞かせ以外にも、韓国の民話等を紹介し、生徒に興味関心をもたせることができた	①継続して実施すること。 ②多くの生徒が参加しやすい日程設定が難しい。
服装	①学年集会を必要に応じて開催し、服装検査等を実施	①服装についてはかなり良くなり、成果をあげた。	①さらにレベルアップさせる。
マナ	①学年集会、科集会、全体集会で生徒に呼びかけ	①数字で見える成果はないが少しずつ向上している。	①今後も意識の向上に努める

「心とからだ いきいき（食・読・遊・寝）キャンペーン」保護者アンケート調査結果の概要

教育総務課

- 1 調査時期 平成19年5月
- 2 調査対象 公立・私立の保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の保護者から抽出

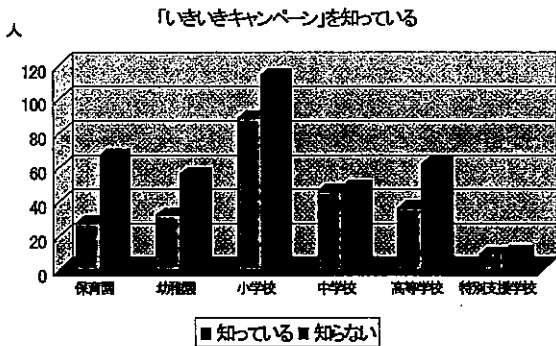
3 結果概要
(回答状況)

	保育所	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
回答数	98	92	215	99	100	20	624

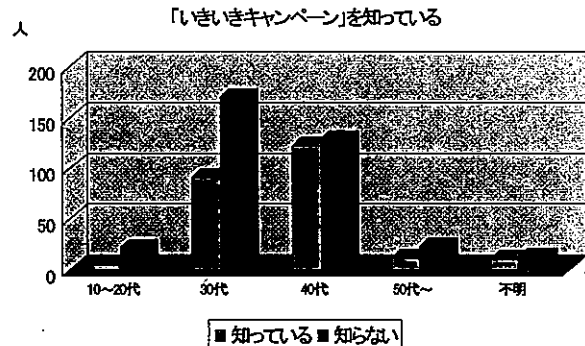
(問1-1) キャンペーンを知っている ※不明：28

	保育所	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
知っている(人)	27	32	89	46	36	9	239
	(27.6%)	(34.8%)	(41.4%)	(46.5%)	(36%)	(45%)	(38.3%)
知らない(人)	67	56	114	48	62	10	357

(校種別の状況)



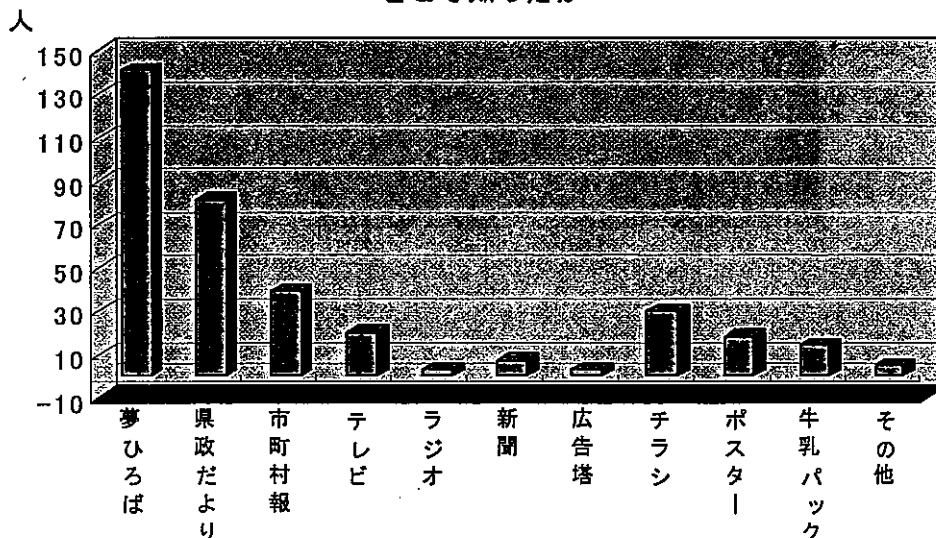
(年代別の状況)



(問1-2) キャンペーンをどこで知ったか (複数回答)

【主な媒体】 「夢ひろば」141人 「県政だより」81人 「市町村報」39人
「チラシ」30人 「テレビ」「ポスター」38人

どこで知ったか

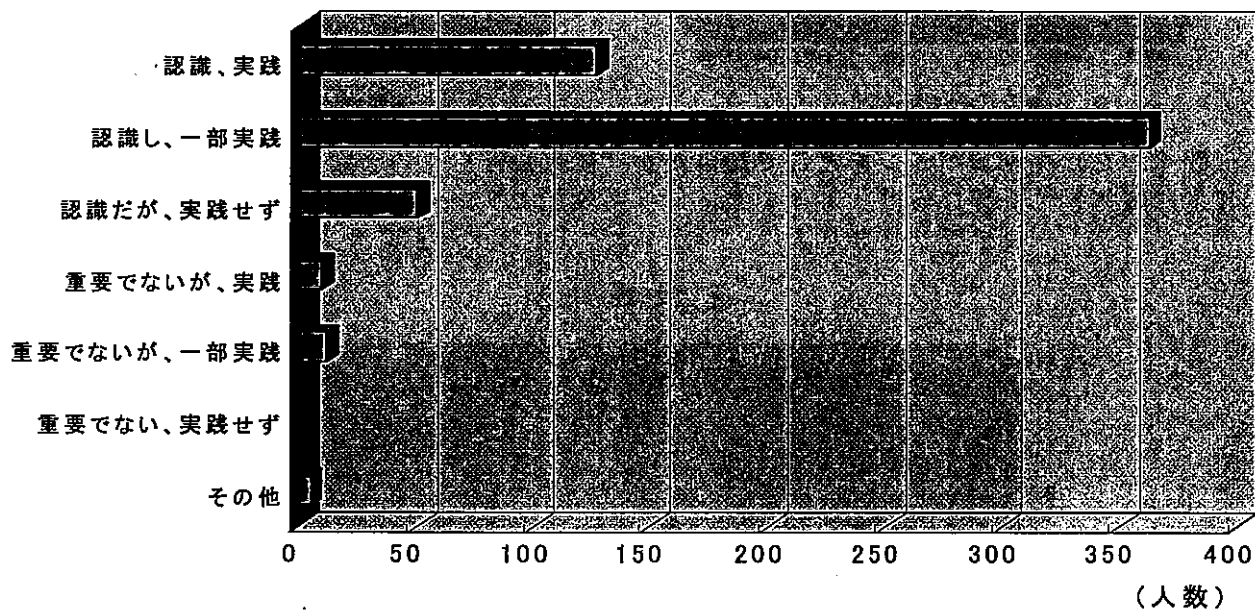


(問2) キャンペーンの趣旨等をどう思うか

(人)

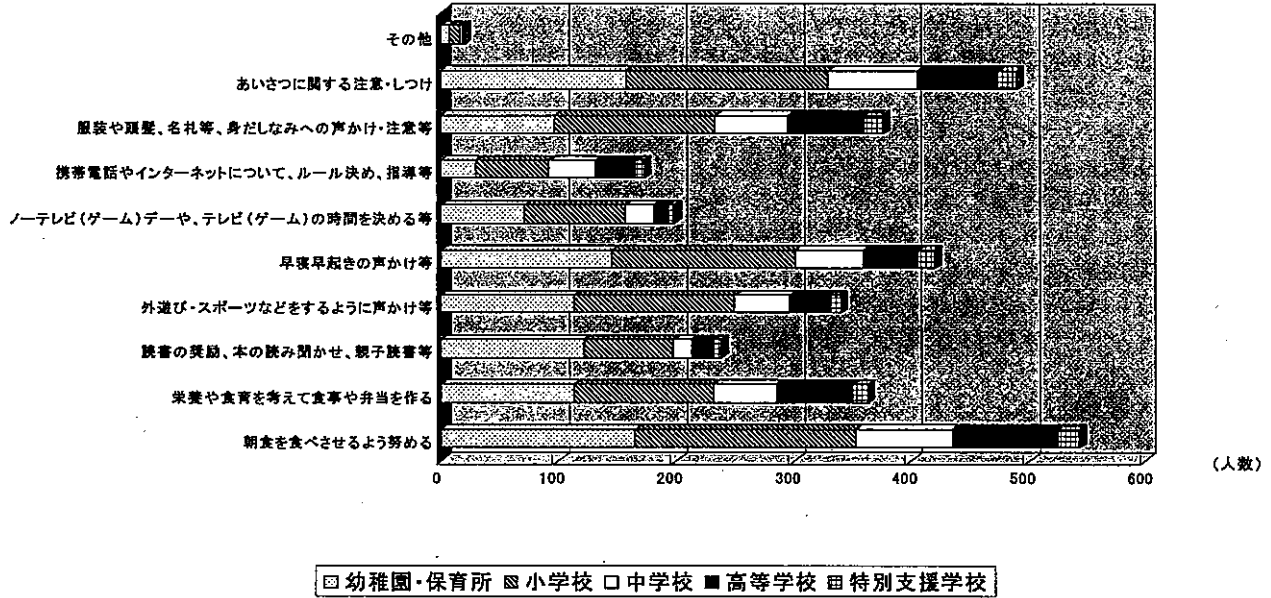
	保育所	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
重要性を認識し、実践	21	25	46	16	13	6	127
重要性を認識し、一部実践	52	58	124	58	60	11	363
重要性を認識、実践せず	5	3	17	13	12	0	50
重要性を認識せず、実践	3	0	2	2	2	1	10
重要性を認識せず、一部実践	1	0	3	3	4	1	12
その他	4	0	0	0	2	0	6
不明	12	6	23	7	7	1	56
合計	98	92	215	99	100	20	624

キャンペーンの主旨等をどう思うか



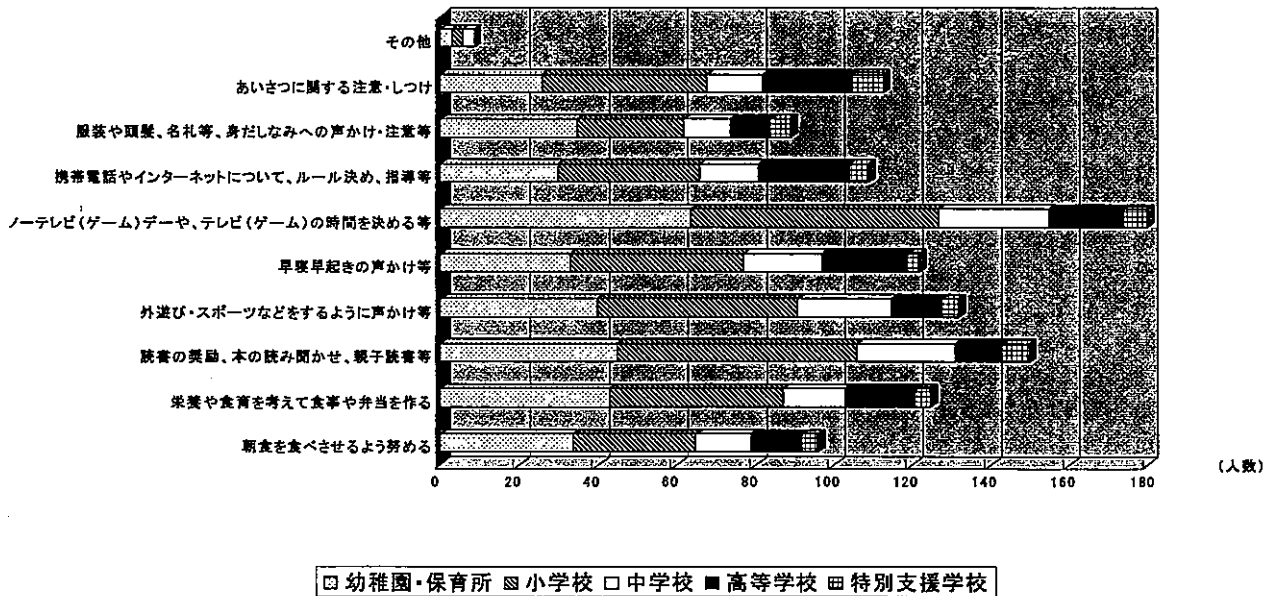
(問3-1) 家庭での取組 (複数回答)

家庭での取組



(問3-2) 家庭での今後の取組 (複数回答)

今後の取組



【問4】キャンペーンや子どもたちの基本的生活習慣等についての意見等

【キャンペーン（基本的生活習慣）について】

- ・基本的生活習慣は、小さいときからしっかりと教えていかなければいけないと思う。大きくなるにつれ、服装や髪型などに個性を出したくなる年齢となり、親の注意もなかなか受け入れてくれないようになってきている。(保)
- ・子どもはまだ小さいこともあり、いまは生活習慣こそ一番大切なことととらえ生活しています。県内の現状（生活習慣だけでなく、学習、学力、体力等）の情報はとても参考になります。(幼)
- ・望ましい生活習慣を実践すると自然に基本的生活習慣がきちんとしてくれることが本当によく分かる。(幼)
- ・キャンペーンとして取り組むのはとても良い事だと思います。最近の子どもは、あいさつなどの注意、しつけが出来ていないと思う。(小)
- ・基本的生活習慣の大切さを、キャンペーンや町の取組等で学ぶ事が出来た。(小)
- ・とてもよいキャンペーンだと思う。家庭の役割として、少しでも多くのことに取り組むことが必要と考えます。(中)
- ・小さい頃から習慣化されていなければならない事だと思います。(高)
- ・キャンペーンがある事で、時折見直しが出来てよい。(高)

【朝食・睡眠】

- ・朝食や睡眠の大切さなど親もついついルーズになる事もあるので、キャンペーンを通して親の意識の定着につながり、よいと思う。(幼)
- ・幼稚園で早寝早起き朝ご飯を園長先生が進んで奨励して下さるので子どもたちにも伝えやすく助かっています。(幼)
- ・最近小学校で給食を残してもいいらしいですが、私たちの小学校の頃は、全部食べ終わるまで席を立てませんでした。そこまではほしいとは思いますが、学校でも食べ物を残さず食べることの大切さを教えてほしい。(幼)
- ・当たり前のことなのについつい忙しさを忘れてしまいがち。こういうキャンペーンやチラシがあると助かる。朝食の指導も「パンだけでなくあと一つ二つ加えれば栄養が取れます」など分かりやすく指導していただき励みになる。(中)
- ・友人の子どもが幼少期によく眠れない事から、就学後に行動、学習面で問題が見られ、睡眠の大切さを実感した。(高)

【娯・マナー・テレビ・携帯電話・インターネット】

- ・自転車のマナーが悪すぎる。家庭内で再度指導すべき。(高)
- ・「長時間テレビを見るのはやめよう」や「たっぷり寝よう」は具体的な時間が分からないので年齢に合った時間を入れるべき。そうでないと個人の感覚では時間にズレがあるのでは？(幼)
- ・我が家はほとんどテレビを見ないが、同年齢の子どもでもずっとテレビを見ている家庭もある。「消せば」というと泣きわめくから面倒くさいと言われた。テレビが切れる子どもをつくると思うのですが、そんなことはないのでしょうか。(幼)
- ・土日の休みにテレビを見過ぎるのが気になります。(特)
- ・携帯電話やインターネットについては、親の姿を見て育った子どもたちに見られる。親自身が節度のある態度を示していないと、益々陰湿な子どもたちが育っていくのではと考えます。家でメールばかりしている親やパソコンの画面ばかり見ているような親ではダメだと思う。(幼)
- ・携帯電話を、中高生から持たせるのはおかしい。学校で禁止されているのを持たせる親もおかしい。大人の方から考えを直して行かなくては。(小)
- ・「メディアとの正しいつきあい方」を親子で学ぶ機会をつくってほしい。(小)
- ・携帯電話は小学生までは禁止してほしい。ルール以前に、携帯が子どもの体にどれだけ悪影響か重視するべきだと思う。テレビを見ない、ゲームを買わないことを推進してほしい。(保)

【家庭・親の役割】

- ・園や学校など教育機関の協力も必要だと思うが、すべて家庭教育すべきことだと思うので、その必要性を家庭に向けて啓発することが大切だと思う。(幼)
- ・普通のことなのに出来ない、しようしない親の考え方が問題。(幼)
- ・当たり前のことばかりだと思いますが、親の姿勢が問われる。(幼)

- ・子どもより、まずは親自身の基本的な生活習慣についての教育が必要。(小)
- ・親が自分の都合を少しばかり我慢すれば、結果として親が楽になるのを実感しています。(小)
- ・親も一緒に手本になるよう努めている。(小)
- ・不審者や、車のドライバーのマナーなど、子どもより大人に向けて、もっと声かけをしてほしいと思います。県外から転入してきて、鳥取の人のマナーの悪さに驚いた。(小)
- ・親自身が手本を示さないと無理。(小)
- ・日常生活の中の小さな労働を通して、責任を持つ事や働く事を感じるだけではなく、物事の段取りや判断が出来るようにさせたい。(小)
- ・習慣づけは家庭の責任。しかし、キャンペーン等の啓発は大切。(中)
- ・親がまず学習してしっかりと育てたい。子どもの問題は親の責任。(中)
- ・まずは家庭で子どもをしっかりと見よう。(中)
- ・家庭での当たり前前の躰なのに、保育所、幼稚園、学校のせいにする親が増え、困っています。
- ・親が手本を示さないと難しい。(高)
- ・親の普段からの生活がしっかりとしていないといけない。(高)
- ・親の生活習慣を見直さなくては。(高)
- ・親の生活習慣がきちんとしていないので、子どもと一緒に出来ない。(高)
- ・今の子どもは、当たり前前の事が出来ない子どもたちがたくさんいます。小さいときからの親の躰が大切だと思います。一般常識を身につけさせたいと思う。学校の送り迎えを親がしているようでは、子どもがダメになる気がします。何かよくする方法はないのでしょうか。(高)
- ・子どもの頃の生活習慣は大人になっても大きく影響すると思う。それぞれの家庭でできることから取り組んでいけば良いと思います。(保)

【取り組みについて】

(提案)

- ・子どもの頃の生活習慣が大人になってからも影響すると思うが、忙しいとつい手軽なものに頼ってしまいがちなので、分かりやすく取り組みやすい方法があれば、よいと思う。(幼)
- ・キャンペーンの言葉だけが先走りしないよう、具体的な取組等が紹介されたりの方がよい気がする。教育再生会議の内容を見ると、「えー、そこまで…」と思う内容がいっぱいなので嫌になりそうですので、そういう感じにならないようにお願いします。(幼)
- ・昔と比べてマイナス面を強調するのではなく、現代事情をふまえて、根本的なことへの周知徹底や出来るところから始める声かけをお互いしていければ。(小)
- ・「三つ子の魂百まで」と言われるように、幼少期からの習慣、考え方等が重要。子どもたちにも個性があるので、同じように身に付くものでもなく、声かけを根気よくしていくこと。(中)
- ・生活習慣の重要性について、かなりのメディアで取り上げられるようになったが、親の意識は全般的に低いように思われる。あたりまえと思っていることがそうでない親も多いので、もっと啓発していかなければならない。親の意識水準が全般的にあがっていかなければならない。(保)
- ・夏のラジオ体操の習慣はなくなったようですが、復活するといいですね。(保)

(要望)

- ・キャンペーンなどで知らせ、気づかせることは大切なことだとは思いますが、講演などで話を聞く場を設けても、行く人は行くし、行かない人は行かない。やる人はやるが、やらない人はやらないというのが現実ではないでしょうか。後者の方々をどのように動かしていくことが出来るのか、それがとても大変なことだと思います。生活習慣は、大人の影響が大ですから、型にはまった啓発だけでは、なかなか難しいと思います。(幼)
- ・鳥取は共働きの家庭が多いため、朝晩子どもと一緒に食事が出来ないこともある。そんなとき、どうすれば子どもとコミュニケーションが取れるのか、他の家族はどうしているのか知りたい。(幼)
- ・共働きの家庭が増え、放課後が気になる。住んでいる場所により、学童保育などに差が出ないようになればと思う。(小)
- ・幼稚園や公民館、子育てサークル等、誰もが参加しやすいよう出張講演等をしてほしい。(幼)
- ・他の学校で行われている事例が知りたい。(中)
- ・読書と外で遊ぶをまとめて好きな事、得意な事を楽しめる時間をつくるへ。5本柱か、追加して7本柱へ。(高)

(悩み・心配・批判)

- ・いいとは分かっているけど、なかなか実行できない。(小)
- ・今の子どもたちは、習い事とかも多いので、「基本的な生活習慣」を実行するのは、なかなか難しいのでは？(小)
- ・必要なことは分かっているけど、なかなか実践できないのが現実です。頑張ったね、頑張っているよ、みたいな情報があれば励みになるかもしれません。(幼)
- ・常に声かけはしているが、本人の意志によるものが大きい。どのように躰をすればよいのか分からなくなるときがある。(中)
- ・キャンペーンのことは全く知りませんでした。(小)
- ・アンケート結果でグラフにただけでは何の意味もないですし、このような細かな質問に答えて何になるのか分かりかねます？(小)
- ・土日の休みにテレビを見過ぎるのが気になります。(特)
- ・最近マンガばかり読んでいます。(特)
- ・このキャンペーンは家庭で親がやるべきこと。(小)
- ・声かけをしても聞いてくれないときもある。(小)
- ・子どもを中心に考えないといけないが、仕事の関係上なかなか密に子どもと関われない。(保)
- ・大人は子供のことを見ず自分のことばかり時間をとっているのは問題。(中)
- ・日常生活の中の小さな労働を通して、責任を持つ事や働く事を感じるだけではなく、物事の段取りや判断が出来るようにさせたい。(小)